発生する災害に備える

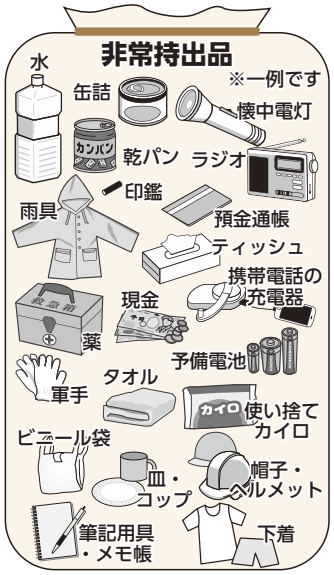
災害に備えて

『防災マップ』は、北海道が平成24年6月に公表した太平洋沿岸における最大クラスの津波や、約50年に1回程度起こる大雨が発生し、市内の河川が氾濫した場合の予想結果に基づいて作成していますが、津波浸水予測範囲や土砂災害警戒区域から外れているからといって、被害にあわないとは限りません。災害はいつでも、どこでも起こり得るものとして、非常時の持出品を準備したり、日頃から家族で発生した時にどのように行動するか話し合うことが重要です。

市は、被災時に向けて、備蓄用のパンなどの食糧や飲料水、発電機、懐中電灯、毛布などを市内の避難所などに分散して備蓄をしていますが、必要最低限の数量であるため、災害の規模によっては、長期間の対応は困難です。また、津波により高台にある避難場所へ避難した場合や、自宅で被災し、避難所に避難することができない場合など、市の備蓄品をすぐに受け取ることができない可能性もあります。

各家庭において、家族全員分の食糧を最低3日分、可能であれば7日分を備蓄することで、突然発生する災害にも対応できます。実際に災害が発生した時に、自分自身の身を守るのは自分です。家族全員を守るためにも、家族一人ひとり、それぞれの食糧品や懐中電灯、携帯ラジオなど、非常時に必要なものをまとめ、すぐに持ち出せる場所に配置しておきましょう。

また、大きな地震による災害では、家具が転倒し、家の中で被災された方も多くいます。家具を金具で固定するなど、自宅をより安全な場所にするためにできることを、家族みんなで考えて、実践しましょう。

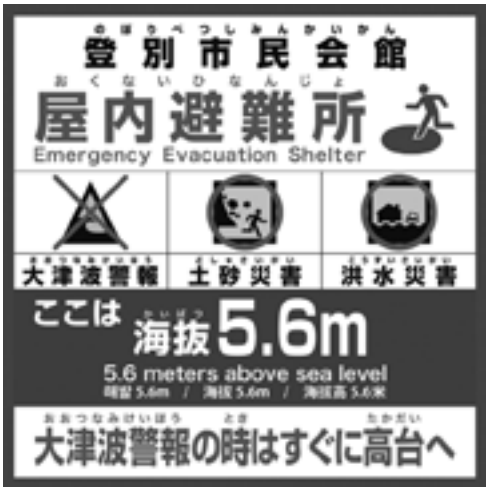


あなたの避難場所はどこですか

災害が発生したときに、家族全員が一緒にいるとは限りません。災害時には、携帯電話などが使用できず、連絡をとることができない可能性もあります。皆さんは、災害時に、家族全員がどこに避難するか話し合ったことはありますか。

東日本大震災の際には、家族の安否を確認するために自宅に戻った方が、津波によって被災したケースがありました。一人ひとりがどのように行動し、どこに避難すべきか、あらかじめ話しておくことで、二次災害の危険を減らすことにつながります。

災害の種類によって、安全な場所は異なりますが、特に子どもの場合であれば、災害発生時に的確な判断をすることが難しいものです。あらかじめ、自宅や職場、学校など、家族それぞれが日頃多くの時間を過ごす場所で、地震が発生したら、土砂災害の危険が高まったらなど、さまざまな状況を想像し、避難場所を決めることもいいのではないでしょうか。もし、災害発生時に離ればなれになってしまったとしても、家族で決めたルールが、皆さんの焦る気持ちを抑え、適切な行動をとることにつながります。



◀避難所によって対応可能な災害が異なる

**災害が発生した場合
家族がどこにいるか
分かりますか**